

---

# 亡霊

花浅葱羽羅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

亡霊

### 【Nコード】

N3467L

### 【作者名】

花浅葱羽羅

### 【あらすじ】

死んだ少年は事実を知っていて、亡霊は見ないふりをした。

苦しい。

そう思う暇さえ与えられていたのか。いや、今考えるとなかったと思う。

その時にはもう、俺の意識は遠くなっていた。再び目がさめたときに見たのは、俺の身体だった。焼けて爛れて、でも不思議と気持ち悪くない。自分だからだろうか。

ああ、死んだんだなあなんて再認識した。

きつと俺は天国にいけなくて、そのままさ迷うのだろうなあと思った。

「さ迷うのかい。本当に。」

後ろから柔らかい声が聞こえた。そんな馬鹿な。気配を感じなかった。

「君はそうやって罪を逃れようとするね。だけど、現実はどうやっても変わらない。」

いつの間にか後ろに居た男は言い続ける。大人の男性で、腰ぐらゐまで長い髪を一つに結んでいる。誰なのだろう。

「そうやって目をそらしたって変わらない。」

男は倒れている俺の身体に近づいて、しゃがむ。やめろ、ふれるな…やめてくれ！

「この身体は、」

男が触れると、俺の身体がぶるりと、一瞬震える。

やめろ、やめると心の中で叫ぶ。声は出なかった。空気は震えない。口が微かに開く、焼けて、爛れた顔に辛うじて残る、目と口が微かに開く。焦点が中々合わず、辛うじて、俺の目を見据える。その目に捉えられて動けなくなる。空気と共に微かに開いた口から言葉が漏れる。

やめてくれ、ききたくない。

俺に向けて何回も繰り返し、繰り返し紡いでいる言葉。  
どんなに嫌でも、俺の耳はその音を拾ってしまう。

「…おに…いちゃん、おにいちゃん、」

「ちがう、ちがう、俺は何も…」

目を背けたい、背けられない。

ちがう、おれはなにもやってない。そう、だっておれはしんだのだ。

「死んでないよ。ほら、きちんと見てごらん。」

やめてくれ、おしえないでくれ、おれはそんなことしりたくない。

「これは君の弟だ。」

双子のね。

(後書き)

凄く、分類に迷いました。これはホラーなのだろうか…少なくともファンタジーじゃないと思うのですが…。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3467/>

---

亡霊

2010年10月20日19時37分発行